

編集後記

聖徳大学生涯学習研究所は、平成11年度創設以来、今日まで地域の生涯学習の推進のために「聖徳大学生涯学習フォーラム」の開催や「課題別研究会」など、聖徳大学の人的資源を活用しつつ生涯学習の研究・実践に努めてまいりました。

大学における教育研究機能を、地域社会に活用還元することが、生涯学習時代の到来とともに、これからの大学のあり方としてますます重要な責務となっております。

本学も、そのための努力をつづけておりますが、生涯学習研究所も、地域社会への貢献のためにも専門的な研究機関としての機能を期待されております。そして、その研究機能の一つとして研究紀要を発行しているものです。

平成16年の、研究内容としては、研究の継続するものもあれば、新しい領域にチャレンジする課題もあります。これらも課題については、さらに研究が推進されることを願って、生涯学習研究所の紀要第3号として、ここに発行することになりました。

平成15年度に、文部科学省の私立大学高度化推進事業「学術フロンティア推進事業」において、聖徳大学生涯学習研究所が応募した「生涯学習の観点から『少子・高齢社会の活性化』に関する総合的研究」が採択されました。そして、その研究の拠点として「生涯学習社会貢献センター」がいよいよ完成する運びになりました。このように、この1年間に本学の生涯学習に関する環境も大きく変わってまいりました。

今後の研究事業においても、この研究紀要は、これからもますます、研究誌としての役割が大きくなるものと思われまます。

本号では、学術フロンティア推進事業の研究とも重複する部分があるために、今回も発表に至らなかった部分もいくつかあります。しかし、前号に続いて、この第3号も多様な生涯学習の領域の中から、独創的な研究が発表されています。ここに9編の研究のまとめを基に、第3号の研究紀要として発表いたします。この内容については、今後、さらに、研究を拡大していくことに努めたいと思います。

学術フロンティア推進事業のまとめとともに、本学における生涯学習の研究成果が、さらに充実した研究に発展することを期待しております。同時に、これからの研究に活用されますよう、より充実した研究を今後も続けることに努めたいと思います。

生涯学習研究所長 福留 強